

市民参加の視点からみた事業分析について(概要)

市民参加の先進都市である京都市において、市民参加をより一層進めるためには、市政運営のあらゆる場面で、市民参加の観点を取り入れることができないか、職員一人一人が常に意識することが重要です。

このたび、市民参加推進フォーラムにおいて、市民参加の観点で特徴的な2つの事業について、その手法や効果の分析を行いました。

本資料は、その分析結果の中から、特に、他の所属においても、参考にしていきたいポイントについて、簡潔にまとめたものです。

この内容が、庁内で共有され、市民参加を進めるためのヒントや気づきとなることを期待しています。

なお、詳細については、本編に記載していますので、そちらもぜひ、お読みください。



みっけ隊アプリケーション

概要

これまで市民参加の手法を取り入れることが難しいと思われた土木管理分野において、事業の企画段階から市民参加型のワークショップを複数回実施し、市民との協働によりスマホアプリケーションを開発した。

分析結果

ポイント
1

土木管理課や土木事務所において、上司が若手職員のプロジェクトを応援する土壌があったことが、アプリ開発でのワークショップの実施や工夫につながった。

ポイント
2

多様な人から意見を聴きたいという思いが工夫につながり、ワークショップ参加者が安心して発言できる場となっていた。

ポイント
3

担当部署が市民のことを信頼しているという姿勢を示すとともに、ワークショップの目的を丁寧に説明し続けた。その結果、土木施設の維持管理について、優先順位を付けざるを得ないことや、市民が担えることがあるなど、市民と京都市との共通認識を深めることができた。

ポイント
4

アプリ開発の企画段階から、市民意見を聴くワークショップを実施したことにより、京都市ならではの機能がつくという大きな成果をもたらした。

ポイント
5

市民参加の手法を取り入れにいとわれていた土木管理分野の職員が、市民と直接対話を行い、市民意見を聴いたことが、仕事への充実感につながっている。



景観市民会議

概要

市の景観政策のPDCAサイクルがシステムとして構築されている中で、C(チェック)の段階において、公募により集まった市民による評価及や課題抽出、その課題の改善に向けての意見交換が行われている。

分析結果

ポイント
1

市民と共に意見交換をする場を、景観政策の検証システムの2本柱の1つとして位置付け、市民意見を直接聴き、反映させることを制度として確立させた。

ポイント
2

市民の意見を聴く場と、市民の学びの場を融合させたユニークな企画内容であり、市民が「行政に意見を言う」という気負いを持たずに参加できる工夫がされている。

ポイント
3

景観政策について、市民が「自分ごと」と感じ、自主的な活動を進めるための工夫が重ねられており、その結果、市民のネットワークが新たに生まれるなどの成果が現れている。